

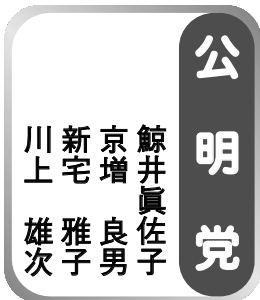
市政のここがききたい

9月定例会では15人の議員が質問しました。

各党派の人数に応じて紙面の割り付けを行っています。

ここでは紙面の関係でその一部を要約して掲載しています。

〔八街市ホームページに一般質問の項目を掲載してあります。〕
<http://www.city.yachimata.chiba.jp/>



代表
質問
川上 雄次

◆次期総合計画の方向性

問 基本構想の理念、将来像及び政策、施策案作成の進捗状況を伺う。

市長 基本構想案は、9月14日から市民の皆さんに公表をして、パブリック・コメント手続を行い、10月には八街市総合計画策定審議会に諮問をし、その答申を受けて12月の市議会定例会に上程する予定です。

問 今なぜ、この時期にパブリックコメントを行うのか、その背景を伺う。

市長 市民参画、市民との協働の集大成として、次期総合計画の基本構想案がパブリック・コメント手続の対象として最もふさわしいとの判断から、この段階で行うことにしました。

市民の皆さんから意見を伺い、必要なものは基本構想に反映させ、今後の行政

運営に役立てます。

◆「八街健康安全都市宣言」の具体的施策

問 健康診査に胃がん、前立腺がんの血液検査PSA測定を導入と緑内障の検診を望むが如何か。

市長 胃がん検診は、血清学的胃がんスクリーニング法であるペプシノーゲン法では、血液中に含まれるペプシノーゲン濃度を測定し、その値により陽性か否かの判断を行うもので、今後、受診者の検診時の負担が軽減され、検査内容も充実し、検査費用等の削減などの状況を見据えながら検討します。また、前立腺がんの検診は食生活の変容等により、近年、前立腺がんの発症状況は乳がん等と同様増加傾向にあり、市民の健康管理の面から重要な検診として取り上げていく必要があると認識し、検討課題と考えています。なお、緑内障は先天性や網膜剥離等により2次的に起こるもので、検診は考えにくいと思います。

問 脳ドックや新生児聴覚検査への助成を求める。

市長 現在、脳ドックに対する助成制度はありません



が、脳の病気の早期発見や予防は非常に重要であり、その結果として医療費の節減につながり、長期的には国民健康保険財政の安定に寄与すると認識しています。また、新生児聴覚検査は、現在、助成制度の導入の予定はありませんが、新生児の難聴を早期発見・早期対応することは非常に重要であることから、今後、脳ドックの助成と併せて研究します。

問 千葉県の筋力トレーニング推進事業へ本市も参画すべきと思うが如何か。

市長 県が推進している事業は、従来の健康づくり施策の殻を破り、一人ひとりの健康や生活習慣に関する情報を分析・評価の上、それぞれの状況に合った有酸素運動、筋肉トレーニング、

栄養摂取などの健康づくりプランを市町村住民に提供し、情報技術を活用して健康づくりを継続的に支援するとともに、健康性格コーディネーターが市町村住民の健康生活を総合的にコーディネートするものです。

本市でも運動をテーマにした健康教室や健康教育、またスポーツプラザ等の施設を有効利用するなど、類似した事業を実施していますが、県の事業にも参画できるような検討します。

問 子どもの安全対策の充実策として通学路の整備と通学環境の整備状況を伺う。

教育長 通学路の整備は、各学区ごとに危険箇所等を明示した地図を作成するなど、学校で安全教育を進めています。通学環境の整備状況は、地域巡回パトロールを



▲さすまた

実施する等通学環境整備に当たっています。今後とも関係各課と情報を共有しながら、地域とのコミュニケーションを図り、通学路の通学環境の整備に努めます。

問 防犯ブザーの貸与と教育施設へ「さすまた」の配備を望むが如何か。

教育長 近年の不審者事件に対し、学校では学校内外で防犯対策を実施しています。「さすまた」は、万が一のときに備え、今後本数や配備場所等を含めて検討します。防犯ブザー貸与も、検討していますが、現時点では貸与するという結論には達していません。

◆住民サービスの充実を

問 総合窓口設置でワンストップサービスを実現し合わせて業務の合理化を望むが如何か。

市長 市民サービスの向上を進めていく上で検討しなければならぬ課題と認識しています。総合窓口の設置に伴い、コンピュータを効果的に活用し、事務の合理化を同時に進めるべきと考えており、申請書の様式